

・今日のアドバンスクラスのコーチ役では、コーチングセッションでよくありがちな失敗に陥ってしまいました。

クライアント役の方が自分と同じ営業であり、自分の仕事でもよく直面する問題だったために、クライアントの視点ではなく、自分の視点でしか考えられなくなってしまいました。

「クライアントの世界にコーチがいる必要はない、むしろ客観的な視点から見て視点を変えるのがコーチ」と以前のコーチング練習会で何度も勉強してきたのに、いざ自分が直面するとまったくうまくできませんでした。

自分の中の勝手な「常識」にとらわれて、クライアントがどうしたいのか、何を思っているのかをしっかりと聞くことができなかったのが失敗だったと思います。

次回からはもう一度「主役はクライアント」というコーチングの基本を忘れずにコーチ役セッションに臨みたいと思います。

自分がクライアントのセッションではコーチ役の方のおかげで具体的に何をすべきか整理ができたように感じていましたが、実はまだ自分のマインドとして向き合うべき問題があいまいになっていることにその後の振り返りで気が付かせていただきました。

「相手に申し訳ない」と思っていることが実は「自分が嫌われたくない」の建前になっていることが日常でもあると思うのですが、自分の中でもう一度その気持ちと向き合う必要があると教

えていただきました。

このあたりの話をしていただけなのが、単にコーチングのスキルだけを学ぶのではないこの講座の魅力の一つでもあると感じました。

また他の方のセッションで「業務量が多すぎる」という人は自分しかできないと思い込んで仕事を抱えていることが多い、というのはたしかにと感じました。コーチングセッションでも日常でもよく直面する場面だと思うので、クライアントの発言にとらわれず「本当に自分にしかできない仕事なのか？」をクライアントがもう一度考えられるようなかわりができたらと思います。

本日もありがとうございました。

(A.K 30代女性 富山県)